

令和２年度 学校評価書

山形県立村山特別支援学校山形校

【学校教育目標】 【めざす子ども】	すすんで学び、よりよく生きる人を育てる 心も体も元気な子ども 生活する力のある子ども 自分の思いや気持ちを伝える子ども	【教育方針】 (１) 一人一人が今もっている力や特性を的確に把握し、また本人や保護者の思いや願いを踏まえ、育てたい力（育成すべき資質・能力）を整理します。 (２) 必要な知識や技能、思考力、判断力、表現力などを、子どもたちが受け身ではなく主体的にすすんで学び身につける日々の授業を展開していきます。 (３) 卒業後の生活の中で、暮らすことや働くこと、余暇を楽しむことなど、生涯にわたってよりよく生きることができる人を育てていきます。
----------------------	--	---

評価方法：教員・保護者とも【めざす学校】及び【今年度の重点】に沿った評価項目を設定し、４段階で評価。
評価基準：Ａ（良い・そう思う）、Ｂ（ほぼ良い・だいたいそう思う）、Ｃ（やや改善・あまり思わない）、Ｄ（要改善・まったく思わない）
達成度：＜Ａ～Ｄの４段階評価のうち、ＡとＢの合計（％）＞ ８０％以上をＡ（達成できた）、６０～７９％をＢ（ほぼ達成できた）、４０～５９％をＣ（あまり達成できなかった）、３９％以下をＤ（達成できなかった）、で示す。

【めざす学校】「安心して任せられる、安全な学校」 及び 【今年度の重点】「安心、安全な学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
①新型コロナウイルス感染症対策	・三密を回避した学習活動の工夫と手洗い指導、校内各所の消毒。健康観察の徹底。	・日常の学習活動はもとより、修学旅行やむらとくまつり等の行事も感染症対策を講じて実施することができた。 ・健康観察カードの記入など、家庭の協力を頂きながら健康観察を徹底し、児童の体調把握・管理に努めることができた。 教員(10／10)、保護者(14／14)	A (98%)	・R2の実績や諸通知等を踏まえ、感染症対策及び学習活動の工夫を行う。 ・合同(本校・天童校)の学校行事は、早めに方向性を検討する。 【三校小主任、教務主任、教頭】 →R3 小学部運動会及びむらとくまつりは各校実施。R4 以降については三校間で継続検討。※山形校にとって合同実施の意義は大きい。
②安全管理・事故防止の徹底 安全な学習環境づくり	・定期の安全点検とヒヤリハットの共有。児童の様子で気掛かりなことは職員間で相談。保護者との連携。	・学部会や打合せ等で児童の様子やヒヤリハット事例を共有するとともに、起きた事故については速やかに原因を検証し、再発防止策を検討・徹底した。 教員(9／10)、保護者(14／14)		・定期の安全点検はもとより、気になることは職員間で声を掛け合い、日常的な安全管理・安全な学習環境づくりへの意識を高める。 ・年度初めに、危機管理マニュアルを周知・共有する機会を持つ。【保体部】
【めざす学校】「早く登校したくなる、楽しい学校」 及び 【今年度の重点】「一人一人に応じた指導・支援の充実」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
③個別の教育支援計画、個別の指導計画の充実、活用	・授業づくりにおける個別の指導計画の日常的な活用。授業カードとの連動と T.T.の充実。学習形態の工夫。	・個別の指導計画・年間学習活動計画を踏まえながら、授業カードを活用した授業づくりを進めることができた。 ・中学部進学に係る関係機関への提供資料として、個別の教育支援計画を有効活用することができた。 教員(9／10)、保護者(14／14)	A (90%)	・個別の指導計画に基づき、学習場面に応じてより教育効果が高まるよう学習グループ・形態を工夫していく。【学部】 ・個別の教育支援計画は、関係機関との連携の際のツールとして積極的な活用を図る。【教務部】
④キャリア教育の視点からの支援	・キャリア教育全体計画(案)の検討と学部間の系統性を踏まえた支援。	・教務部よりキャリア教育全体計画(案)が提示され、「小→中→高」のつながりを意識して支援に当たる契機となった。 教員(9／10)、保護者(12／14)		・キャリア教育全体計画を作成し、小学部段階で育みたい力を明確にした上で支援に当たる。特に上学年は、中学部への接続を見据えた支援を心掛けていく。【教務部、学部】
⑤教員の専門性の向上	・一人一授業研究及び外部講師招聘の授業研究会の実施。各種研修会への積極的な参加。	・一人一授業研究や外部講師招聘(山大:野口教授)の授業研究会を通して、児童の主体的な姿を引き出すための支援の工夫等について専門性を高めることができた。 教員(8／10)、保護者(13／14)※「登校が楽しみ」		・より効果的な授業研究の在り方を検討・工夫していく。(T.T.での授業づくり等)【学研部】 ・集合開催だけでなくオンラインによる研修会も積極的に活用し、専門性の向上につなげる。【学研部】
【めざす学校】「早く登校したくなる、楽しい学校」 及び 【今年度の重点】「学習評価に基づく授業の改善」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑥育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた目標設定、3つの観点による学習評価の実施	・教科(国語、算数、音楽、体育)において三つの柱と3観点による目標設定、学習評価を実施。	・育成すべき資質・能力の三つの柱への意識付けは、授業研や日々の授業づくりの中で、大分定着されてきている。 ・今年度も評価検討会を行い、複数の目による学習評価の妥当性向上を図ることができた。 教員(9／10)、保護者(14／14)	A (88%)	・引き続き、実践及び研修を継続していく。また、各教科等を合わせた指導(生単、遊び、日生)についても、三つの柱と3観点による目標設定及び学習評価を一層意識していく。【教務部】
⑦外部資源(地域人材等)を活用した教育活動の推進	・「地域とつながる体験・発信事業」の活用による外部講師を招聘した授業づくり。	・感染症に配慮した上で、できる範囲での校外学習や外部講師を招聘した学習(ダンス、読み聞かせ等)を実施することができ、児童の興味・関心の広がりや主体的に取り組む態度の育成につながった。 教員(9／10)、保護者(10／14)		・外部講師を招聘した授業づくりを継続する。成果と課題を踏まえて活動を充実させる。(地域とつながる体験・発信事業)【学研部】 ・感染症に配慮した上で、校外学習、交流及び共同学習を計画・実施していく。【学部、学研部】
【めざす学校】「相談や支援を受けられる、頼りになる学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑧家庭や関係機関との連携 センター的機能の充実	・教育相談業務の平準化のため、複数で対応。学校見学、巡回相談等への速やかな対応。	・複数体制で教育相談業務に当たることができた。報告に係る起案文書も一部簡略化した。 ・コーディネーターが窓口となって校内外のケース会が円滑に実施され、共通理解とよりよい支援につなげることができた。 教員(9／10)、保護者(14／14)	A (96%)	・児童の様子にアンテナをはり、ケース会を活用した支援の充実を図る。必要に応じ関係機関との連携につなげる。【教育支援委(コーディネーター)】 ・巡回相談の際は事前に校内での検討会を実施し、適切なコンサルテーションにつなげる。【教育支援委(巡回相談員)】
【めざす学校】「働きやすい、やりがいのある学校」				
評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題及び改善策
⑨全職員の学校経営・学部経営への参画と協働的な校務運営 【教員のみ評価】	・担当者の起案をもとに、準備・作業等は協働。事務部との連携。	・感染症対策に係る日常の様々な業務や教育課程変更の対応等に全職員で協力して当たることができた。 ・学習環境の整備や児童への関わりなど、事務部との連携を密にし、協力を得ながら教育活動に当たることができた。 教員(9／10)	A (90%)	・担当者が変わっても円滑に業務移行できるよう、各部署での資料整理(紙媒体及びデータ)を一層進める。【各部署】 ・引き続き、事務部との連携を密にして校務運営を行う。【教頭、全体】

